



# 人には物語がある。



感動は物語を生み、人は共鳴する。  
 そして、さまざまな示唆を得る。  
 今年も物語を紡げただろうか。  
 人生を織りなす縦糸、横糸。  
 一本一本紡げただろうか。  
 “千人”の回峰は“千”の物語を生む。

231  
人目



播磨国総社 射橋兵主神社 宮司  
 神社本庁駐在教諭師 /  
 兵庫県神社庁宗教教諭師

**西本和俊**  
 Kazutoshi Nishimoto

神様のおそばにそっと控えていること  
 それが宮司の仕事です

『週刊BCN』 vol.1770 (4 / 1) 『週刊BCN』 vol.1771 (4 / 8)

232  
人目



スイッチサイエンス  
 Global Business Development

**高須正和**  
 Takasu Masakazu

簡単に理解されず真似できない  
 「変なもの」を作ることこそが  
 先進国の役割だ

『週刊BCN』 vol.1772 (4 / 15) 『週刊BCN』 vol.1773 (4 / 22)

233  
人目



瀬戸内市立美術館  
 館長

**岸本員臣**  
 Kazuomi Kishimoto

美術が与える感動を  
 一人でも多くの方に伝えたい

『週刊BCN』 vol.1774 (4 / 29・5 / 6) 『週刊BCN』 vol.1775 (5 / 13)

225  
人目



成都ウィナーソフト 総裁兼CEO  
 CSIA (China Software Industry Association)  
 常務理事 日本事務所所長  
 China Association of Trade in Services  
 常務理事 日本事務所所長

**周密**  
 Mi Zhou

日本のおばあちゃんに生まれた感性  
 を生かし、中国と日本のビジネスを  
 成功させる

『週刊BCN』 vol.1758 (1 / 7) 『週刊BCN』 vol.1759 (1 / 14)

228  
人目



FFRI  
 代表取締役社長

**鵜飼裕司**  
 Yuji Ukai

日本のサイバーセキュリティーの世界  
 でゼロからイチを生み出す

『週刊BCN』 vol.1764 (2 / 18) 『週刊BCN』 vol.1765 (2 / 25)

234  
人目



日本コンピュータシステム販売店協会  
 (JCSSA)  
 専務理事

**松波道廣**  
 Michihiro Matsunami

「ザ・コン」の仕事はいい思い出  
 挫折感も喪失感もない

『週刊BCN』 vol.1776 (5 / 20) 『週刊BCN』 vol.1777 (5 / 27)

226  
人目



大和コンピューター  
 代表取締役社長

**中村憲司**  
 Kenji Nakamura

目指すのはワクワク感のある会社  
 必ずしもコンピューターにこだわら  
 ない

『週刊BCN』 vol.1760 (1 / 21) 『週刊BCN』 vol.1761 (1 / 28)

229  
人目



合資会社アイティ企画  
 代表

**木村宏之**  
 Hiroyuki Kimura

毎日生きていることが  
 今はとても幸せです

『週刊BCN』 vol.1766 (3 / 4) 『週刊BCN』 vol.1767 (3 / 11)

235  
人目



写真家

**山中順子**  
 Junko Yamanaka

世紀を超えて生きる「いのちの輝き」を  
 私が「100歳」になってもずっと撮り  
 続けていきたい

『週刊BCN』 vol.1778 (6 / 3) 『週刊BCN』 vol.1779 (6 / 10)

227  
人目



koma enterprise Limited  
 chairman

**小間裕康**  
 Hiroyasu Koma

ヒト・モノ・カネを通じて、  
 「わくわくすること」を生み出したい

『週刊BCN』 vol.1762 (2 / 4) 『週刊BCN』 vol.1763 (2 / 11)

230  
人目



島田地蔵寺  
 住職

**神野哲州**  
 Tesshu Jinno

いまま脳裏に浮かぶ幼馴染みの言葉  
 「マニュアルのないパソコンをつくり  
 たい」

『週刊BCN』 vol.1768 (3 / 18) 『週刊BCN』 vol.1769 (3 / 25)

236  
人目



高電社  
 代表取締役社長

**高京徹**  
 Kyotetsu Koh

「翻訳」という世界において  
 確固たる存在であり続ける

『週刊BCN』 vol.1780 (6 / 17) 『週刊BCN』 vol.1781 (6 / 24)

237  
人目アイサイト  
代表取締役

仙波克彦

Katsuhiko Senba

生まれ育った松山を  
未来の見える街にしていきたい

『週刊BCN』 vol.1782 (7 / 1) 『週刊BCN』 vol.1783 (7 / 8)

241  
人目豆蔵ホールディングス  
代表取締役会長兼社長  
ファウンダー

荻原紀男

Norio Ogiwara

“時の流れに身をまかせ” つつも  
日本のIT産業発展の道を探り続ける

『週刊BCN』 vol.1790 (9 / 2) 『週刊BCN』 vol.1791 (9 / 9)

245  
人目キングソフト  
代表取締役社長兼CEO

馮達

Feng Da

ナンバーワンになるために  
仕事も日本での生活にも全力で挑む

『週刊BCN』 vol.1798 (10 / 28) 『週刊BCN』 vol.1799 (11 / 4)

238  
人目大塚商会  
代表取締役社長

大塚裕司

Yuji Otsuka

企業会計原則に則った経営と社員の  
成長が長期的な繁栄につながる

『週刊BCN』 vol.1784 (7 / 15) 『週刊BCN』 vol.1785 (7 / 22)

242  
人目野村総合研究所  
産業ITイノベーション事業本部  
産業ITグローバル事業推進部  
上級アプリケーションエンジニア

石田裕三

Yuzo Ishida

自分にとって納得できないことが  
エネルギーの源泉になる

『週刊BCN』 vol.1792 (9 / 16) 『週刊BCN』 vol.1793 (9 / 23)

246  
人目VLP Therapeutics  
Founder & CEO

赤畑 渉

Wataru Akahata

「普通の日常生活」をワクチンで守る  
私を信じてくれる人たちの期待に応えたい

『週刊BCN』 vol.1800 (11 / 11) 『週刊BCN』 vol.1801 (11 / 18)

239  
人目インプレスR&D  
代表取締役社長

井芹昌信

Masanobu Iseri

コンピューターの進化とともに  
新しい出版事業の姿を追い求める

『週刊BCN』 vol.1786 (7 / 29) 『週刊BCN』 vol.1787 (8 / 5)

243  
人目ソフトクリエイティブホールディングス  
代表取締役会長  
創業者

林 勝

Masaru Hayashi

よき友人たちに恵まれ  
パソコン販売に業態転換

『週刊BCN』 vol.1794 (9 / 30) 『週刊BCN』 vol.1795 (10 / 7)

247  
人目株式会社うちゅう  
代表取締役社長

八島京平

Kyohei Yashima

「宇宙」に魅かれた小学生が  
そのまま大人になって夢を叶える

『週刊BCN』 vol.1802 (11 / 25) 『週刊BCN』 vol.1803 (12 / 2)

240  
人目ムラウチドットコム  
代表取締役社長兼CEO

村内伸弘

Nobuhiro Murauchi

大正時代のアントレプレナーだった曾  
祖父、その「利他の精神」を引き継  
ぎ発展させる

『週刊BCN』 vol.1788 (8 / 12・19) 『週刊BCN』 vol.1789 (8 / 26)

244  
人目ヨドバシカメラ  
元専務取締役

加藤忠行

Tadayuki Kato

写真に興味のなかった青年が  
巨大量販店とともに人生を刻む

『週刊BCN』 vol.1796 (10 / 14) 『週刊BCN』 vol.1797 (10 / 21)

248  
人目オービックビジネスコンサルタント  
代表取締役社長

和田成史

Shigefumi Wada

敵と味方が入り乱れる社会でも  
変えない五つの「OBCの原点」

『週刊BCN』 vol.1804 (12 / 9) 『週刊BCN』 vol.1805 (12 / 16)

こぼれ話

番外編

あの日、出会わなければ、心の底から湧き出る哀しみに溺れることはなかった。それは偶然の鉢合わせだった。脚の不自由な老人が前を歩いている。ぶつかりそうになって、思わず左手でその人の右ひじを支えた。横顔を見るなりオヤッと思った。「久田さん！ ジミーじゃないですか」「おー！ おくくん」。その瞬間から支える腕が再会の喜びに変わった。目の前には挨拶すべき喪主である大塚裕司さんが立っておられる。本堂には大塚商会創業者の大塚實さんの大きな写真、穏やかな顔でこちらを見ておられる。そんな状況での出会いは。10月29日の築地本願寺は雨。冷たい中を傘をさして550人の甲問客が社葬に参列し、實さんに焼香した。私の番は400人目ぐらいだった。順番が来て椅子から立ち上がり、焼香に向かった。おだやかで自信に溢れた表情の實さんの写真に、感謝の念をお伝えした。BCNは大塚商会に育ててもらって成長した。特に創業期の恩恵は大きなものだった。「ありがとうございました」。

いずれはこんな時が来ると覚悟し、ご高齢であるがゆえに心の準備はできていた。それでも同じ世界におられないことに、心にスッポリと穴があいた感じがする。亡くなられたのは9月7日だ。お別れの記事を書いて社葬の日を待った。雨なのでタクシーで会場に向かった。すでに多くの会葬者が實さんの写真と語らっていた。やがて焼香を終え喪主のほうに移動した。ジミーとはその直後の会合だった。よく出会えたものだ。新年にいただいた賀状に「今年こそ会いたいね」と添え書きがあった。それ以来、ずっと気になっていたものだから、会えて嬉しかった。ジミーはジミーで「今日は来てよかった。もう知った人もないしね」。「よかった」「よかった」と、お互いに顔を見合わせては、葬儀の席にもかかわらず、嬉しそう。二人とも實さんとのご縁を深く意識した。こんなこともあるのだ。

会場の出口で大河原克行さん(週刊BCNの元編集長)がツーショットを撮ってくれた。この写真が最期の思い出になるなんて……。『ジ

ミー、この階段降りられる?」「大丈夫だよ。見れば、すり足歩行しかできない。片手に傘、もう一方に杖。雨足は強い。「大丈夫?」「大丈夫だって」「こんな天気なんだから、内田洋行の秘書室に電話して車を回してもらいたいじゃないですか」「そんなことではいけないの。もう辞めたんだから、関係ないの」。久しぶりに見る顔つきだ。唇を“へ”の字に噛み締めて、きつい口調で言い切る。懐かしい顔つきだ。築地本願寺の交差点はごった返していた。どうにかタクシーをつかまえ、大丸東京店に向かった。「今日はすし鉄に行こう。もう、この年になるとうまいものを食べることが楽しみなんだよ」「いいですね」。「昔、天ぶらの稲ぎくへも行ったね……」。

他愛のない話をしながらジミーはビールをお替りした。「飲んでも歩けますか?」「この駅は家に帰るのに始発だし、座れるから便利なんだよ」。12階には、蕎麦の永坂更科、天ぶらのつな八、すし鉄、鰻の伊勢定がある。「ジミー、おヒマなら月例会をこの階の店でやり



左腕の感触は忘れない(10月29日 築地本願寺)

ませんか」「いいねえ」。で、11月の例会は26日午後1時に決まった。当日は鰻屋の前で30分待った。おかしいなあ。体調が悪いのかな。姿を見せなかった。12月2日、實さんを偲ぶ会にもジミーの姿はなかった。二日後の4日、BCNの佐相記者から訃報メールをもらった。「元内田洋行社長・久田仁さんが亡くなられました。11月25日です」。呆然とした。私はジミーに生まれた。駆け出し記者のころコンピューターと流通の仕組みの基礎を教わった。これが私の背骨になっている。さようならジミー。

【注】登場していただいた方々の肩書きは取材当時のものです。